

(令和6年度)
自己評価書

園番号	園名
705	奈良市立青和こども園

705奈良市立青和こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が園の教育目標を共通理解する ・「奈良市立こども園カリキュラム」について教職員間で共通理解し保育に活かす。 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、教育・保育の方針や教育ビジョンを打ち出し、教育目標を達成する為の基本方針を全職員で確認し合った。また、日々の保育や研修等において共通理解を図ってきた。 ・各クラス年1回の園内公開保育や奈良市の公開保育に取り組む中で、保育を振りかえる機会となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を定期的に行い、子どもの育ちを見取ることで、次の計画につなげていくことができた。 ・「奈良市立こども園カリキュラム」が具体的な保育の指標となり研修の際に職員間で子どもの発達を共通理解できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で園教育目標の共通理解をしているが、保護者に関心をもってもらえる工夫は必要である。 ・今年度の取り組みや課題を職員間で話し合い次年度に活かしていく。
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良市立こども園カリキュラム」に基づいて自園の指導計画の見直しをする。 ・遊びの時間を確保し、遊びが豊かになる環境構成や援助の在り方を探る。 ・研究保育を行い、指導法の工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題に「明日の保育につながる環境構成の工夫」を設定し、職員間で子どもの姿を見取り、次の日に必要と考える環境構成を話し合った。 ・保育カンファレンスを積み重ねることで、保育者が意図をもって環境構成や援助を行うことができるようになってきている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々遊びを積み重ね、子ども達がやってみたいと心を動かす環境構成について話し合いを大事に積み重ねた。 ・でいあシートやドキュメンテーションを用いて職員研修を行い、子どもの姿や保育内容を様々な視点から考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も子どもの姿を多角的に見取り子どもの興味にそった環境構成を行っていきけるよう、職員間での話し合いや研修を大切にしていきたい。 ・幼児の発達や特性に応じた指導計画や教育環境の見直しを行い、保育の創意工夫を図っていきたい。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある園行事の実施 ・地域の方の協力による活動の充実 ・子どもの経験や発達に必要な行事の精選 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって必要な経験や内容となるよう行事の内容、時間、回数等精選して行ったことで、行事に主体的にかかわる子どもが増えた。 ・地域の方との交流の内容を工夫したことで、触れ合うことを楽しむことができた。 ・伝統的な行事について大切にすることで、子ども達が文化に触れ興味をもつ機会となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事内容が日頃の保育へと継続する場面が多く見られた。 ・保護者アンケートで、「行事を楽しみにしている」という回答が98%を超えた。 ・地域の方とかかわる時間帯を見直したことで、遊びの時間を確保しながら交流も増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣校園との交流を計画的に進め、深めていきたい。 ・引き続き子ども達の様子に合わせて、行事内容の精選を行っていききたい。 ・地域の方とできたつながりを大切にしていきたい。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で様々な人と関わり自己を発揮したり、相手の思いに気付いたりする。 ・幼児の発達に合わせた指導内容を工夫する。 ・飼育栽培を通して、勤労の喜びや生命を大切に育てる心育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者自らの人権感覚を磨き、一人一人を大切に生活することを行ったことで、子どもたちは安心感をもって生活することができた。 ・日々の小さなトラブルも大切な機会ととらえ、互いの気持ちを伝え合うことができるよう年齢に合わせて伝えるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達を知る」・「集団生活のルールを知り守る」「思いの伝え方を知る」などの大切さを生活の場面で具体的に話し合い、気づけるようにしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人権感覚を磨き一人一人を大切に、子どもに寄り添い、自己肯定感をもてるように導きたい。 ・保護者にも幼児期の人権教育について伝える機会を作り、家庭と園の連携を深めるようにする。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級の実態を出し合い、指導の手だてを職員で共通理解して取り組む。 ・保護者・地域関係機関との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる事象を担任一人に対処せず、園全体の問題として子どもを見守り、情報共有をする等職員全員で取り組むようにした。 ・保護者が相談しやすい関係作りを努め、職員共通理解のもとこどもの指導にあたるようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や地域関係機関との連絡を密にした。 ・終礼や会議で定期的に各クラスの様子を共通理解する機会を持つようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象や保護者の要望に柔軟に対応できるよう、職員間で情報を共有し対応できることが大切である。
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	<ul style="list-style-type: none"> ・対処方針や指導計画が明確である ・日頃より実態把握・早期発見に努めている ・各学級の状況を園組織として共有できている ・保護者や地域と連携できている ・組織的に迅速に対応する体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わり方について保育計画の中に位置づけ、善悪の判断ができるよう取り組んでいる。 ・クラスの実態を出し合い、園全体で相談し対応していけるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に合わせ、自分の気持ちと相手の気持ちを知り、どちらも大切にできるよう、話し合ったり絵本などを使って伝えたりを積み重ねた。 ・保護者が心配していることを保育者に気軽に話せる関係構築をし、園での様子や対応を丁寧に知らせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の様子はわからない部分もあり、様子を把握する難しさがある。市の関係機関との連携を大事にしていきたい。 ・子どもや保護者の変化や様子に気付けるよう、引き続き職員間での話し合いを大切にして、職員一人一人の力量を高めていきたい。
(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・園内のコーディネーターが中心となり、一人一人の子どもの様子や診断、療育の状況等をまとめ発達の様子を職員間で共通理解している。 ・幼児の実態把握に努め、個々に応じた指導法の検討や研修をしている。 ・家庭や関係機関との連携を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の幼児に対して、どの職員も共通の方針で支援を行えるよう、情報共有を大切にしている。 ・発達センターや療育機関との連携を図り、保護者とも共通理解をしながら援助の手立てを考えた。 ・市のコーディネーターとも連携を密にし、一人一人の子どもにとって良い環境について検討した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達に合わせたねらいや目標を立て、支援方法や教材を工夫して取り組んだ。 ・保護者の悩みや園での幼児の実態を踏まえ、専門機関との連携を積極的にとった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別指導計画」について、反省評価を行い幼児の発達の姿に合わせて改善をしていく。 ・保護者の悩みや困っていることを共に考え、不安を解消していけるよう努力する。 ・クラスの中で育っていける集団作りを工夫する。 	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容						
	③ 指導方法の工夫改善						
	④ 家庭との連携						
	⑤ 関係機関との連携						

(令和6年度)
自己評価書

園番号	園名
705	奈良市立青和こども園

705奈良市立青和こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 「保護者・地域に信頼される園」をめざし園経営を柔軟に行う。 園の方針を職員が共通理解し、学級経営にいかす。 職員が連携分担し責任をもって園務にすすんで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員に教育ビジョンを伝え、園経営の共通理解をした。 話し合いながら学級経営案や毎月の指導計画を立てることでその時期の子どもの姿に合わせた保育を行うことができた。 事務分掌には各自責任を持つが、確認の声かけを心がけた。 働き方が違う職員が多い中、会議録を共有したり、打ち合わせノートを閲覧できるようにする等、互いの状況を把握し、連携がとれるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員が互いの特性を活かしながら連携して園運営に取り組んでいる。 保育上の悩みや課題を相談し合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が多人数なので報告・連絡・相談を大事にし、連携、協働体制を強化していきたい。 園評価の課題を基に次年度の計画・実践をしていく。
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 研修体制を充実させ、園内研修会を積極的に実施 1期～5期の「でいあシート」を用いて研修を行う。 園外研修会に積極的参加、報告をし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 月2回の園内カンファレンスの時間を確保し定着させることで、保育について語り合うことを積み重ねた。 園の研究主題に基づいた研修を中心に、一人一人が自主的に研修に参加した。また、参加した研修内容を園内でも共通理解ができるようにした。 園内研修の場を数回もち、保育内容や幼児の発達に合わせた環境構成と援助の工夫などにつながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保育カンファレンスを積み重ね、子どもの姿に沿った環境構成の工夫を行うことができた。 「でいあシート」では、保護者に保育を伝える工夫が見られるようになってきている。 研修内容の伝達方法を、職員研修や資料の回覧等工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務が多い中、カンファレンスを定期的に行うことは難しいが、業務の見直しを行いながら、時間の確保に努めていきたい。 園内研修の内容が毎回同じにならない工夫が必要である。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
③ 園外の研修への積極的参加							
④ 園外研修内容の共有							
⑤ 研修成果の普及							
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域に安全管理についての取組を知らせ理解と協力を得ながら、状況に応じて適切な対応をとる。 関係機関との連携を密にする。 「子ども安全の家」の周知。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の敷地内であることから、小学校とも連携し安全管理に努め、地域の方にも協力をいただくことができた。 毎月計画的に避難訓練を実施し、安全に対する意識が高まった。また、園児引き渡し実施訓練を行い、保護者にも危機管理意識を高めることにつながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 火災・地震・不審者対応の避難訓練を実施し、指導を積み重ね、内容を知らせることで保護者の意識も高くなるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を工夫し、臨機応変に動ける子どもを育てておくことが大切である。 	
	② 防災計画の立案						
	③ 危機管理体制の整備						
	④ 安全指導の工夫改善						
	⑤ 家庭との連携						
	⑥ 関係機関との連携						
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の健康観察を丁寧に行い、心身の状態の把握に努めると共に、基本的な生活習慣の自立に向け個に応じた指導を行う。 感染症等が蔓延しないよう対策について職員間で共通理解する。 薬剤師による水質検査・照度検査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策について欠席状況や気候等を考慮し必要に応じて注意喚起や対策の再確認を職員間で行った。 日常生活の中で起こるけがや病気、健康診断、毎月の体重測定など様々な機会をとらえて、子どもに分かりやすいように健康管理に対する指導を行った。 給食のアレルギーマッチングにおいて、複数回の確認を行うことで、誤食のないように努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 気温や時期に合わせて必要な健康管理を理由や方法を具体的に知らせたことで、子どもが関心をもって取り組むことができた。 各担任は危機意識をもって対処できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も保護者と共に、こどもの健康に留意しながら、健康でたくましい心と体を育む保育内容を展開していきたい。 職員一人一人が命に関わることだと認識し常に危機管理意識を持てるように、定期的に話題にするようにしていきたい。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備						
	③ 健康観察、健康管理能力の育成						
	④ 関係機関との連携						
	⑤ 昼食の衛生管理						
	(5) 地域との連携						① 園情報の発信
② 園(保育)公開							
③ 小学校との接続・連携							
④ こ幼保との連携							
⑤ P T A・保護者会の活性化							
⑥ 地域教育協議会との連携							
⑦ 学校関係者評価の実施							
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 保育環境の整備 施設設備の点検を行い、危険個所の把握と改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊具、施設設備の点検を強化し事故の未然防止につながった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遊具、施設設備の点検を強化し早期発見に努め事故防止につなげる。 新しい施設ではあるが、安心せずに各担任が意識をもって点検する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回遊具点検日を設けて、声を掛け合い全職員で点検する。 	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 公文書の整理と保管 個人情報保護の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 公文書を整理し、適切に保管を行った。 名簿をはじめとする、個人情報についての書類管理の徹底を職員間で再確認した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 機会あるごとに情報セキュリティについて研修を重ね、守ることの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の情報管理の点検、体制の充実を図る。 	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						
	⑤ 電子媒体の管理						